

日本あちこち河川遡行記（第227回）

大阪-2. 大和川（その2）平成30年10月29日（月）晴

今日は久しぶりの竹馬の友との同行2名での遡行である。近鉄「阿部野橋駅」で落ち合い何十年ぶりかの近鉄南大阪線に乗る。かつては大鉄といわれていて、子供のころは近鉄南大阪線という長い名前で言わず、大鉄に乗ると言えばよかった。国鉄大阪鉄道管理局も大鉄と言っていたな。JRの駅は「天王寺」、地下鉄も「天王寺」だが近鉄は「阿部野橋」と言う。お互い目と鼻の先の距離だが駅名が違う。JRと大鉄との間の道の南端に天王寺区と阿倍野区の区境が有る。区と町名は「阿倍野」なのに大鉄は「阿部野」と言っているのは何でや。実は駅ビルの北西にかつての掘割に「阿部野橋」という橋が有り、それを駅名にしたのである。駅名表示は、「阿部野橋」、「あべの橋」、「あべの」、「近鉄あべの橋」と何度も変わり今は「大阪阿部野橋」になっている何故「阿倍野」にしなかったかと調べると、阪堺電気軌道、上町線（天王寺駅前～住吉公園）の方が先に開業し、駅名を「阿倍野」としていたので重ならないように「阿部野橋」としたようだ。ややこしおすな。そういえば「天王寺高校」は天王寺区ではなく阿倍野区に有るのも変だな。こちらは移転したのだな。

様変わりした天王寺駅から外に出ると日本一の高さのハルカスがそびえている。ほぼ真下からの眺めは首が痛くなる。



01.天王寺駅から出てくるとハルカスが睥睨している

1階の自動改札機の前で落ち合いズラリと並んだ頭端ホームの左端の各停に乗る。五つ目の駅、矢田の高架駅で降り地上に降りてくると、高架橋沿いの道の向こうに大きな看板を掲げたたこ焼き屋が店を開けている。住道で見た店に負けないぐらい目立つ店だな。



02.看板の方が大きいたこ焼き屋さん

今日最初の橋「行基大橋」まで1kmほど住宅地の中を歩く。道の角に全く同じ姿形のお地蔵さんが6体並んでおられる。落ち着いた高台の住宅地に相応しい景色になっている。

川の土手に坂道を上がると土手のすぐ北側に草に覆われた廃線跡が下に見える。かつて関西本線と阪和線を繋ぐ「阪和貨物線」の跡である。



03.道の角に6体のお地蔵さんが並んで
はる



04.関西線と阪和線を繋ぐ貨物線の跡
が有った

いったん二番目の橋となる「下高野橋」に上がりそのまま土手道を西に進む。「行基大橋」とはびっくりする。名僧の名前が入った橋であるが、橋そのものと行基僧とは関係なさそうで、堺上生まれの高僧にあやかっただろう。親柱の一つはザラザラのコンクリートを剥き出しにした柱で何も説明が無い。当方の推理は、先代の橋の橋脚の一部を切り出しこの親柱に転用したと考える。無事に役目を引き継いでや一、と。



05.何じゃ！「行基大橋」の親柱は

Uターンして土手道を東に進む。今日は暑さも寒さもほど良く、西からは涼しい風が吹き背中を押してくれる。もう汗疹の心配はいらない、最高の条件だ！府道26号の旧道に架かる「下高野橋」は平成25年に完成した橋で最新の知見が盛り込まれた素晴らしい橋である。スレンダーな連続桁は橋台部は板桁であるがそれ以外の区間は箱桁に変化させる合理的な桁構造である。2車線の車道の両側の歩道は車線との間に立派な防護柵が挿入され、歩行者の安全確保が十分になされている。橋に似合う照明ポールも素晴らしい。橋の対岸側は大阪市の飛び地になっている。

次の橋の大鉄鉄橋を大鉄びかーの特急「青のシンフォニー」が通過していく。小学校の夏休みの林間学校にお米持参で吉野山に行ったのが懐かしい。大鉄は狭軌であるが大阪線、奈良線、京都線などの標準軌と同じデザインの電車が走っているので間違えやすい。



06.スレンダーな「下高野橋」の向こうを特急が通過



07.狭軌の南大阪線も標準軌と同じデザインの電車が走る



08.府道 26 号の「下高野橋」は歩行者に優しい橋

踏切を越えるとやがて警報機が鳴り遮断機が下りる。しばらくすると 60 年前にデビューした「ラビットカー」と同じオレンジに白帯の塗装の電車がやって来た。懐かしいなー、当時画期的な高加速、高減速の電車でその性能からウサギの名を取った。配色、デザインも画期的であった。二代目の車体の端にはちゃんとラビットカーと書かれているぞ。



09.懐かしいラビットカーと同じ塗装の電車が通過

これまでは川の真ん中が大阪市と他市との境であったが、このあたりは土手下から川の方は松原市となる。昔の村境にお構いなく川を開削した名残で、中近東の国境のようだ。気持ちよく歩いて行くと今度は大阪市が対岸深く浸食し「瓜破南」となる。その一角に大きな清掃工場が青空にその偉容を見せているこれまで数多くの清掃工場を見てきたがこれがダントツの一番や。波型にウエーブした屋根、青空と調和した煙突と彼方の二上山との景観はいいぞ！



10.手前の清掃工場と彼方の二上山は
良き取り合わせだ



11.巨大さを感じさせない good デザイン
だ

工場の東側で阪神高速 14 号、松原線が川を越えている。3 つつ目の阪神高速だ。わずか 10km ほどの間に 3 つも都市高速が川を越えているのは凄いやおまへんか。上下二段の橋で上段に高速、下段は国道 309 号で、高速には料金所が橋の上に設置されている。贅沢な料金所やなー。



12.阪神高速 14 号松原線の料金所が
橋の上に



13.下段には内環状線の国道が

橋の下を潜り進むと次は府道 179 号の「高野大橋」である。橋をよく見ると昭和 30 年代までの長径間の橋によく採用されていた「ゲルバー桁橋」が普通の連続桁橋に改造されている。コンピューターの無い時代では連続桁の設計が出来ず、手計算で設計可能な苦心の橋であったが、見事に変身！橋脚上の支点部は新たな支承と桁補強が成されている。親柱には橋の歴史が書かれている。



14.「高野大橋」は元ゲルバー桁橋
だった



15.橋の歴史が親柱に

「明治橋」を越えて土手道を進むと土手下に茅葺屋根の古民家が建っている。大阪市内にも有ったぞ。敷地は狭いが門構えも蔵も素晴らしい。庄屋さんだったのかな？



16.土手下に古い民家が残っている

大物の中央環状線と近畿道が一緒になって川を越えている。大阪の高規格道路の充実にはびっくりする。3車線×4の12車線の橋である。橋の南側には「阪和道」と「西名阪道」に分かれる松原JCTが有る。



17.中央環状線と近畿道が並んで川を越える

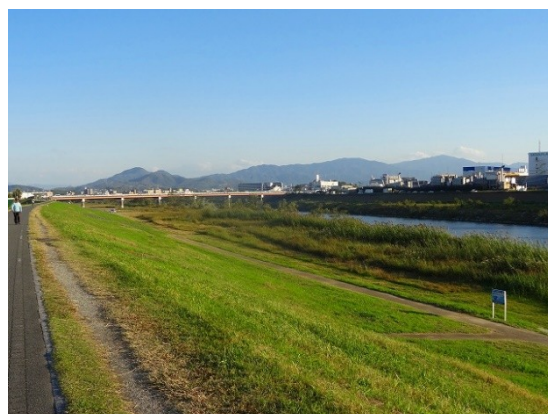
橋の下を潜り土手に上がると八尾市に入る。彼方の二上山が近くなり、大和川はこの山から流れてきているように見える。ここでリュックから三脚を出し記念写真をカシャ。葛城山（H=959m）と金剛山（H=1,125m）の間に二人が入るようにしたがうまくいったかな。



18.二上山から川は流る



19.山と川をバックに記念写真



20.左から二上山、葛城山、金剛山と三段跳びに

今日最後の橋、府道2号の「大正橋」にやって来る。2車線の車道だけの橋だったのを、両側に鋼桁を追加架設し歩道を取り付けている。その時に橋脚の両端に桁を乗せるための梁を打ち足している。その打ち継ぎ目の水平部にクラックが生じているのを友が見つけて叫ぶ、「おい、クラックが入っとるぞ!」。御見それいたしやした。力学的に起こりうる構造なので、打ち継ぎ目処理が不十分だったのだろう。大阪市の橋としては珍しいことだ。



21.歩道桁下の追加した張り出し部コンクリートにクラックが

橋から府道の坂道を降りてくると「太田バス停」が見つかる。15分置きにバスはやって来るので時刻表を見るとなんと1分後に来るではないか。ラッキー。時刻通りに近鉄バスがやって来てご乗車。予定では八尾駅まで乗るつもりであったが、「次は八尾南、大阪メトロ乗り換えです」に「何線や?」、「谷町線や」、「東梅田で降りて一杯いこか?」、「そうしょうか」。で話がまとまり予定変更で地下鉄へ。

阪急百貨店裏のガード下の地元人間しかわからない飲み屋街で焼き鳥で乾杯、歩いた後のビールと焼き鳥!ものごっつー美味しいなー。大阪駅から在来線乗り継ぎで3時間、充実した1日でした。

本日の歩行距離：8.6km。調査した橋の数：11。

総歩行距離：10,130.3km。総調査橋数：12,633。

使用した1/25,000地形図：「大阪東南部」(和歌山5号-3)